

キヤノン株式会社

2024年第1四半期 決算説明会

2024年4月24日

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

■ 2024年1Q実績	P 2~5
■ 2024年年間見通し	P 6~9
■ 財務状況	P 10~12
■ まとめ	P 13
■ 参考資料	P 14~19

- 世界経済の成長鈍化により、当社関連市場でも購入時期先延ばしや在庫削減の動きが見られた
- インクジェット・レーザープリンターは競争環境が厳しく、回復にまでは至らず
- カメラやネットワークカメラは市中在庫の適正化を実施
- 景気減速の中でも、半導体露光装置や商業印刷機は成長、オフィス複合機も業績が安定
- イメージングの売上減少により営業利益は減益となったものの、プリンティング、インダストリアルは営業利益率は大きく改善

2

世界経済は、金利の高止まりによる欧州経済の低迷や不動産不況による中国経済の減速によって伸びが鈍化しており、当社関連市場においても、購入時期を先延ばしする顧客の動きや在庫を絞るディーラーの動きが見られました。

第1四半期のインクジェット、レーザープリンターは厳しい競争環境が続き回復にまで至らず、レンズ交換式カメラやネットワークカメラについては昨年末の商戦期を終え重たくなっていた市中在庫を適正化するための調整を行いました。

一方で中長期的な市場成長が見込まれる半導体露光装置や商業印刷機については、着実に売上を伸ばし、オフィス複合機についてもカラー機を中心としたここ数年の本体販売台数の増加により、サービス収入が成長しました。これに円安の追い風が加わり会社全体で増収を達成しました。

営業利益については、利益率の高いイメージンググループが市中在庫適正化の影響で大幅に減益となりましたが、サービス売上が堅調なプリンティングや、半導体の需要増をとらえたインダストリアルが営業利益を大きく増やしました。

2024年1Q 全社PL

(億円)	2024年 1Q実績	2023年 1Q実績	対前年
売上高	9,885	9,711	+1.8%
売上総利益 (売上総利益率)	4,784 48.4%	4,540 46.8%	+5.4%
経費 (経費率)	3,983 40.3%	3,695 38.1%	
営業利益 (営業利益率)	801 8.1%	845 8.7%	-5.2%
税引前利益	892	875	+1.9%
純利益 (純利益率)	599 6.1%	564 5.8%	+6.3%
USD	148.69	132.47	
EUR	161.35	142.10	

3

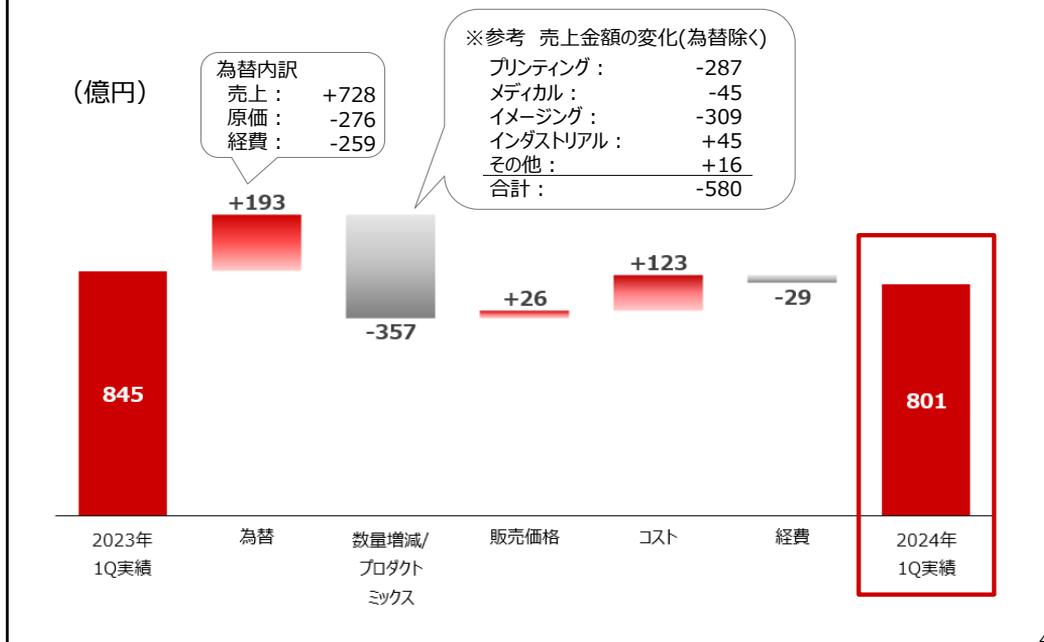
第1四半期の売上は1.8%増の9,885億円となりました。為替はドル、ユーロとも昨年より大きく円安方向に推移したため、増収要因となりましたが、デジタルカメラ、ネットワークカメラにおいて市中在庫が積み上がった影響でセルインが進まなかったことが減収要因となり、全体としてはわずかな増収にとどまりました。

売上総利益については、コロナの収束に伴い、通常のコストダウン活動ができるようになったことから改善しましたが、経費については人件費の上昇や、為替の円安による円換算額の増加により、昨年より大きく増加しました。

その結果、営業利益は対前年で5.2%減少の801億円となりました。

税前利益は為替差損益が改善したことにより前年から1.9%増の892億円、純利益は6.3%増の599億円となっています。

2024年 営業利益分析(1Q)対前年



円安の進行により為替影響は193億円のプラスになりましたが、カメラやネットワークカメラの販売減により数量増減/プロダクトミックスは357億円のマイナスとなりました。

経費は人件費のベースアップや新製品の開発費により29億円増加していますが、コストは物流費の低下に加えて工場経費の削減などにより123億円下がりました。

以上の結果、営業利益は対前年44億円減少し、801億円となりました。

2024年 ビジネスユニット別PL(1Q)

(億円)		2024年 1Q実績	2023年 1Q実績	対前年
プリンティング	売上高	5,803	5,582	+4.0%
	営業利益	655	506	+29.4%
	(%)	(11.3%)	(9.1%)	
メディカル	売上高	1,342	1,311	+2.4%
	営業利益	56	69	-18.9%
	(%)	(4.2%)	(5.2%)	
イメージング	売上高	1,755	1,924	-8.8%
	営業利益	143	373	-61.7%
	(%)	(8.1%)	(19.4%)	
インダストリアル	売上高	685	621	+10.4%
	営業利益	121	74	+62.5%
	(%)	(17.6%)	(12.0%)	
その他及び全社	売上高	551	554	-0.5%
	営業利益	-189	-181	-
消去	売上高	-251	-281	-
	営業利益	15	4	-
連結合計	売上高	9,885	9,711	+1.8%
	営業利益	801	845	-5.2%
	(%)	(8.1%)	(8.7%)	

※2024年第1四半期より、報告セグメントごとの業績をより適切に管理するため、その他及び全社と消去の一部を組み替えており、2023年についても組み替えて表示しております。

5

プリンティングについては、市場が成長している商業印刷機と、オフィス機器のノンハードを中心に売上を伸ばしました。一方、レーザープリンターとインクジェットプリンターは中国や欧州での市況低迷により減収となりましたが、プリンティング全体では増収を確保し、利益率は11.3%と2%以上改善しました。

メディカルは、中国の反腐敗運動による市況低迷に加え、欧米でも商談や設置の延伸により販売が第2四半期に先送りされたため、売上が十分に伸びず、開発や販売での成長投資の増加を吸収しきれずに利益は前年を下回りました。

イメージングについては、カメラは、昨年第4四半期の商戦期を終え、一部製品の市中在庫が重い状態であったことから適正化に向けて、出荷台数を絞ったこと、および量販店のセルアウトを進めるための販売促進費用をかけたことで減収となりました。ネットワークカメラも昨年第4四半期に始まった販売パートナーの在庫調整が第1四半期も継続したことにより、イメージングは全体で8.8%の減収となりました。

インダストリアルは、半導体露光装置が、化合物ウエハーにも対応したパワー半導体向け装置や、業界標準となった先端パッケージ用の後工程向け装置の引き合いが強く、販売台数は前年の29台から49台と大幅増となりました。その結果、売上高は10%の増収、利益率も大きく上昇しました。

- 世界経済は引き続き先行き不透明で、昨年並みの成長にとどまる
- イメージング事業の市中在庫は正常化
- 成長市場である半導体露光装置、メディカル、ネットワークカメラ、商業印刷は拡大する需要を取り込み売上を伸ばす
- 計画通り新製品を今後順次市場へ投入
- 通常のコストダウン活動に加え、事業構造見直しの取り組みを加速
- 4期連続の増収増益と2桁（10%）の営業利益率を目指す

6

世界経済については、地政学的な緊張の高まりや各国の金融政策など政治・経済両面で先行き不透明な状況が続いており、昨年並みの成長になると予想されています。

当社においても第1四半期は、特にイメージング事業で市中在庫が重しとなりマイナス成長となりましたが、ようやく市中在庫も正常化してきたので、第2四半期以降は成長を加速していきます。加えて、半導体露光装置、メディカル、ネットワークカメラ、商業印刷については今年も需要拡大が見込まれており、計画していた新製品についても今後順次市場に投入していきますので、それらを着実に販売につなげ売上を伸ばしていきます。

収益面では、売上荒利の増加に加え、コロナや半導体不足が収束し、通常のコストダウンが期待できること、また工場の経費削減や、製品設計からの原価低減施策の効果が現れてくることから、改善する見込みです。

年初の決算発表で述べた、経費構造を全面的に見直すプロジェクトやメディカル事業革新の活動についても着実に進捗しており、今期にも前倒しで効果をだせる様、取り組みを加速させていきます。これらにより、4期連続増収増益と2桁の営業利益率を目指します。

2024年 見通しのポイントと全社PL

(億円)	2024年 最新見通し	2023年 実績	対前年	2024年 前回見通し	対前回
売上高	43,500	41,810	+4.0%	43,500	0
売上総利益 (売上総利益率)	20,655 47.5%	19,689 47.1%	+4.9%	20,655 47.5%	0
経費 (経費率)	16,305 37.5%	15,935 38.1%		16,305 37.5%	0
営業利益 (営業利益率)	4,350 10.0%	3,754 9.0%	+15.9%	4,350 10.0%	0
税引前利益	4,500	3,908	+15.2%	4,500	0
純利益 (純利益率)	3,050 7.0%	2,645 6.3%	+15.3%	3,050 7.0%	0
USD	141.87	140.85		140.00	
EUR	156.35	152.20		155.00	

2024年2Q-4Qの為替影響額
(1円の変動による影響)

	売上	営業利益
USD	101億円	31億円
EUR	52億円	25億円

7

売上高は対前年4.0%増の4兆3,500億円、営業利益は15.9 %増の4,350億円、純利益は15.3 %増の3,050億円とし、前回の見通しを維持します。

前提となる第2 四半期以降の為替レートは、足元の相場や金融政策の動向などを総合的に勘案し、1ドル 140円、1ユーロ 155円を想定しています。

2024年 ビジネスユニット別PL(年間)

(億円)		2024年 最新見通し	2023年 実績	対前年	2024年 前回見通し	対前回
プリンティング	売上高	23,938	23,461	+2.0%	23,890	+48
	営業利益 (%)	2,606 (10.9%)	2,283 (9.7%)	+14.1%	2,559 (10.7%)	+47
メディカル	売上高	5,820	5,538	+5.1%	5,820	0
	営業利益 (%)	460 (7.9%)	316 (5.7%)	+45.3%	460 (7.9%)	0
イメージング	売上高	9,000	8,616	+4.5%	9,008	-8
	営業利益 (%)	1,438 (16.0%)	1,456 (16.9%)	-1.2%	1,472 (16.3%)	-34
インダストリアル	売上高	3,790	3,147	+20.4%	3,830	-40
	営業利益 (%)	710 (18.7%)	586 (18.6%)	+21.2%	723 (18.9%)	-13
その他及び全社	売上高	1,960	2,088	-6.2%	1,840	+120
	営業利益	-864	-863	-	-864	0
消去	売上高	-1,008	-1,040	-	-888	-120
	営業利益	0	-24	-	0	0
連結合計	売上高	43,500	41,810	+4.0%	43,500	0
	営業利益 (%)	4,350 (10.0%)	3,754 (9.0%)	+15.9%	4,350 (10.0%)	0

※2024年第1四半期より、報告セグメントごとの業績をより適切に管理するため、その他及び全社と消去の一部を組み替えており、2023年についても組み替えて表示しております。

8

第1四半期に好調なスタートを切ったプリンティングの商業印刷機は5月にドイツで開かれる国際的な展示会でさらに商談を活発化させて売上を伸ばし、オフィス複合機は好調な現製品に加え、製品ラインアップを強化することによって、カラー機を中心にシェアの拡大を目指します。それらに加え出荷調整が続いていたレーザープリンターも第2四半期からモノクロ機を中心に売上がプラスに転じること、またインクジェットプリンターも大容量インクモデルを拡販することにより、着実に成長を図ります。

メディカルは、第1四半期は設置の延伸などがあり、低成長にとどまりましたが、年間での5%の売上成長に向け、CTではボリュームゾーンである80列の新製品「Aquilion Serve SP」、MRIでは昨年日本でのシェアNo1獲得に貢献した「Vantage Fortian」を、グローバルで展開することにより、成長を加速させます。

また、販売力強化の面でも、米国における新マーケティング会社や、サウジアラビアの現地法人設立によって商談数が増加しており、早期に売上につながっていきます。収益力については、新製品の投入によるプロダクトミックスの改善、原価低減施策を織り込んだ製品の展開、昨年後半に販売した大型装置の保守サービス開始などにより改善しています。これらに加え、2月に立ち上げたメディカル事業革新委員会で検討している事業構造改革の成果を早期に実現することで、年間で利益率を7.9%にまで高めていきます。

2024年 ビジネスユニット別PL(年間)

(億円)		2024年 最新見通し	2023年 実績	対前年	2024年 前回見通し	対前回
プリンティング	売上高	23,938	23,461	+2.0%	23,890	+48
	営業利益 (%)	2,606 (10.9%)	2,283 (9.7%)	+14.1%	2,559 (10.7%)	+47
メディカル	売上高	5,820	5,538	+5.1%	5,820	0
	営業利益 (%)	460 (7.9%)	316 (5.7%)	+45.3%	460 (7.9%)	0
イメージング	売上高	9,000	8,616	+4.5%	9,008	-8
	営業利益 (%)	1,438 (16.0%)	1,456 (16.9%)	-1.2%	1,472 (16.3%)	-34
インダストリアル	売上高	3,790	3,147	+20.4%	3,830	-40
	営業利益 (%)	710 (18.7%)	586 (18.6%)	+21.2%	723 (18.9%)	-13
その他及び全社	売上高	1,960	2,088	-6.2%	1,840	+120
	営業利益	-864	-863	-	-864	0
消去	売上高	-1,008	-1,040	-	-888	-120
	営業利益	0	-24	-	0	0
連結合計	売上高	43,500	41,810	+4.0%	43,500	0
	営業利益 (%)	4,350 (10.0%)	3,754 (9.0%)	+15.9%	4,350 (10.0%)	0

※2024年第1四半期より、報告セグメントごとの業績をより適切に管理するため、その他及び全社と消去の一部を組み替えており、2023年についても組み替えて表示しております。

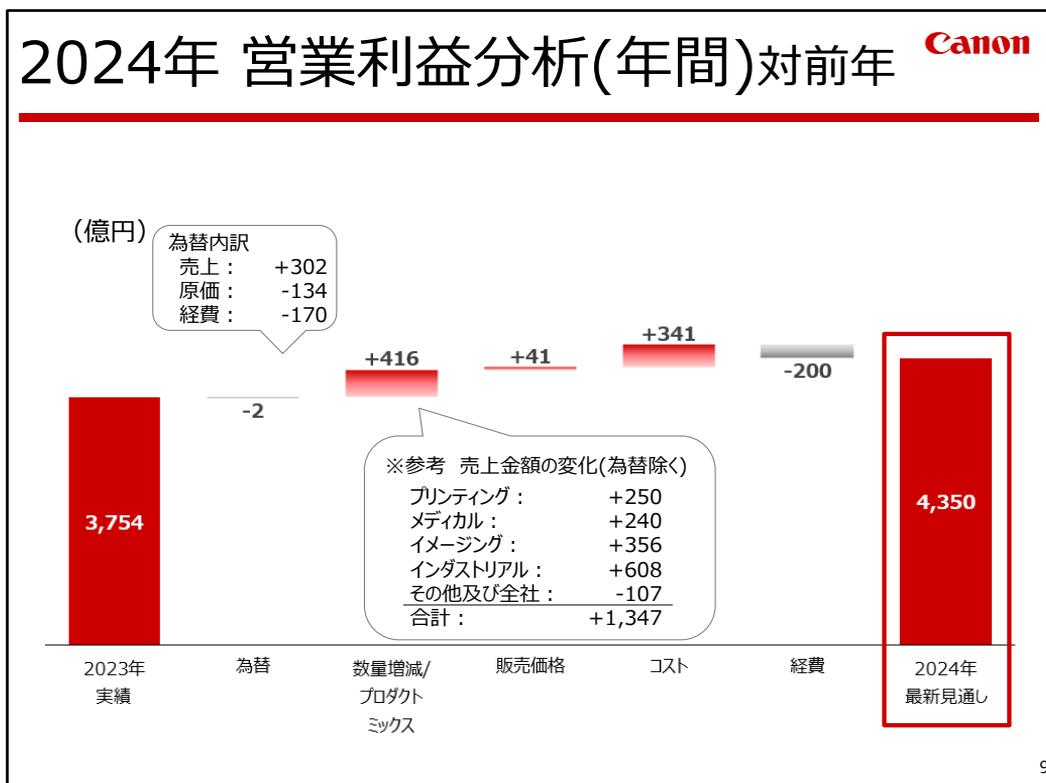
8

イメージングのカメラについては、第2四半期以降の市中在庫適正化に加え、EOS Rシステムのラインアップ拡充によりミラーレス比率を上昇させることによって、売上成長をめざします。また、ネットワークカメラもパートナー在庫の調整が欧州とアジアから終了し、第2四半期以降は売上が成長基調に戻ることから、イメージンググループ全体で4.5%の売上成長を計画しています。

インダストリアルについては、半導体露光装置の販売台数を前年から30%増となる244台まで伸ばし、FPD露光装置についても下期より販売台数を増やす計画であり、すでに大部分の受注を獲得できています。有機EL蒸着装置も、ITパネル向けの大型装置の生産を進め、グループ全体で20%以上の増収を目指していきます。

2024年 営業利益分析(年間)対前年

Canon



営業利益の対前年分析です。

まず為替については、年間ではほとんど影響ありません。

数量増減/プロダクトミックスは4つのビジネスユニット全てで販売増を計画しており、416億円のプラスになる見通しです。

コストについては、物流費の上昇リスクを織り込んでいるものの、部材や工場経費を中心に341億円のコストダウンを見込んでいます。

経費は、人件費増と売上増に伴う経費増により200億円増加します。

以上の結果、営業利益は対前年596億円増加した4,350億円、営業利益率は2桁の10%を目指します。

在庫の状況

- 3月末は円安影響や積送品の増加により一時的に増加
- 2024年末は仕掛品削減で適正在庫である60日以下の水準を目指す

(金額：億円)	2023年				2024年	
	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末	
プリンティング	金額	3,725	3,875	3,776	3,126	3,476
	日数	57	62	60	47	52
メディカル	金額	1,363	1,431	1,509	1,259	1,411
	日数	88	102	107	77	86
イメージング	金額	1,636	1,733	1,846	1,684	1,914
	日数	69	77	77	68	86
インダストリアル	金額	1,330	1,400	1,428	1,329	1,464
	日数	154	187	170	136	160
その他及び全社	金額	534	542	580	571	683
合計	金額	8,588	8,981	9,139	7,969	8,949
	日数	74	82	82	66	76

10

3月末の棚卸在庫は、昨年12月末に比べて金額で980億円、回転日数で10日増加しました。円安による為替影響が約230億円あり、紅海・スエズ運河の航行回避に伴うルート変更により積送品も約150億円増加しています。

それ以外でも、第2四半期から拡販に向けて、半導体露光装置やメディカル、カメラなどで在庫を積み増していますが、生産および販売を計画通りに進め、年末の在庫は60日を下回る適正水準まで下げていく計画です。

キャッシュフロー(年間)

■ 5,700億円の営業CFから、成長投資、株主還元を積極的に実施

(億円)	2024年 最新見通し	2024年 前回見通し	2023年 実績	2022年 実績
純利益	3,050	3,050	2,645	2,440
償却費	2,400	2,400	2,387	2,265
その他	250	175	-520	-2,079
営業活動によるキャッシュフロー	5,700	5,625	4,512	2,626
設備投資	-2,400	-2,400	-2,317	-1,885
その他	-550	0	-437	77
投資活動によるキャッシュフロー	-2,950	-2,400	-2,754	-1,808
フリーキャッシュフロー	2,750	3,225	1,758	818
財務活動によるキャッシュフロー	-2,995	-3,450	-1,567	-1,468
為替変動影響	-18	-38	201	257
現預金の純増減額	-263	-263	392	-393
現預金の期末残高	3,750	3,750	4,013	3,621
手元回転月数(※)	1.0	1.0	1.1	1.0

※ 2024年は年間売上高で算出。2023年および2022年は下期売上高で算出

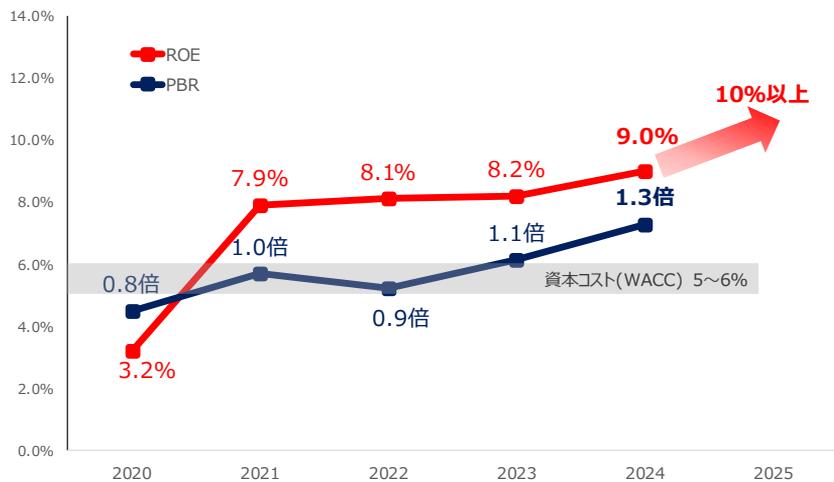
11

今年の純利益は、2008年以来16年ぶりに3,000億円を超える水準を目指すとともに、棚卸在庫の削減をさらに進めて運転資金を圧縮し、5,700億円の営業キャッシュフローを創出する計画です。

投資キャッシュフローは、現在建設を進めている半導体露光装置の新工場などに加え、戦略的な投資を含め、2,950億円を計画しています。

創出した2,750億円のフリーキャッシュフローを使い、1株あたり年間150円の配当と、2025年1月までに1,000億円の自社株買いを行うことで株主還元を図り、売上1ヶ月分を上回るキャッシュについては借入金の返済へ回していきます。

■ ROE 2024年9.0%、2025年10%以上に向け、構造改革を強力に推進



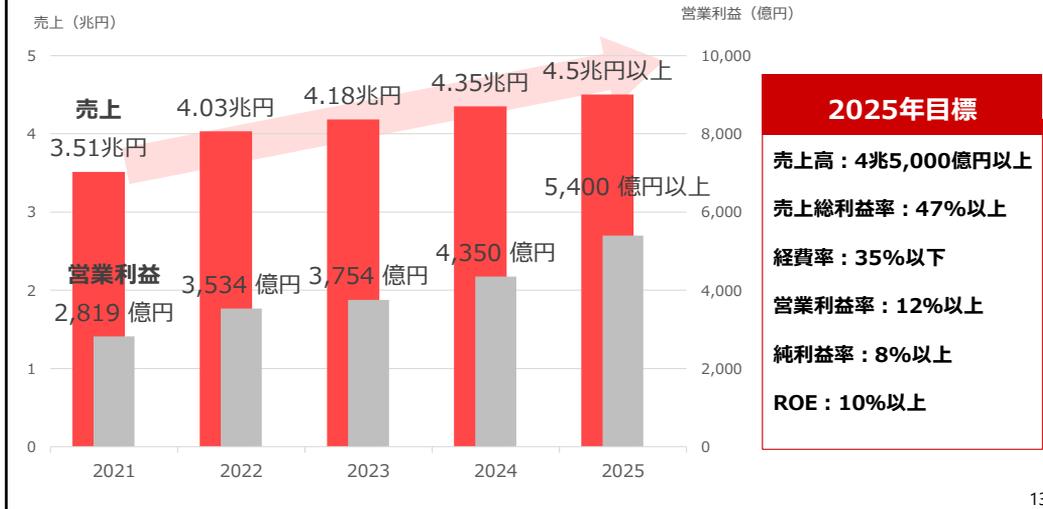
12

資本収益性を示す、ROEについては昨年の8.2%から今年は9.0%まで高める計画で、資本コスト5~6%を上回る見通しであり、PBRは、現時点で1.3倍の水準となっています。

2025年にはROEを10%以上とし、さらにその先、高めていけるように短期、中期の観点から構造改革を強力に進めていきます。

まとめ

- 成長事業の加速により4期連続の増収増益
- 販売構造改革・メディカル事業革新活動を進め25年の業績目標を確実に達成



第2四半期以降は、調整を終えたカメラやネットワークカメラ、レーザープリンターなどの事業が回復することに加え、半導体露光装置、メディカル、商業印刷機など成長市場の事業の成長を加速させ、年間で4%の売上成長を実現していきます。

また従来からの収益改善の取り組みに加えて、販売構造改革やメディカル事業革新の活動についても、基本構想がまとまり、詳細な実行計画への落としこみが始まっています。その一部については年内に成果が出るよう、可能なものから実行に移し、4年連続増収増益を目指すとともに、「グローバル優良企業グループ構想PhaseVI」で掲げた業績目標を確実に達成します。

參考資料

■売上/対前年伸び率

(億円)

		1Q			年間				
		2024年 実績	2023年 実績	対前年	2024年 最新見通し	2023年 実績	対前年	2024年 前回見通し	対前回
プロダクション		990	870	+13.8%	4,138	4,016	+3.0%	4,138	+0
オフィス	オフィス複合機	1,563	1,437	+8.8%	6,275	6,222	+0.8%	6,275	+0
	オフィスその他	983	896	+9.7%	3,693	3,641	+1.4%	3,693	+0
		2,546	2,333	+9.1%	9,968	9,863	+1.1%	9,968	+0
プロシューマー	LP	1,454	1,511	-3.7%	6,317	6,089	+3.7%	6,269	+48
	インクジェット	813	868	-6.3%	3,515	3,493	+0.6%	3,515	+0
		2,267	2,379	-4.7%	9,832	9,582	+2.6%	9,784	+48
売上高計		5,803	5,582	+4.0%	23,938	23,461	+2.0%	23,890	+48
営業利益		655	506	+29.4%	2,606	2,283	+14.1%	2,559	+47
%		11.3%	9.1%		10.9%	9.7%		10.7%	

■対前年売上伸び率(現地通貨)

	2024年	
	1Q	年間見通し
プロダクション	+1.9%	+1.5%
オフィス	+1.7%	0.0%
プロシューマー	-12.7%	+2.4%
合計	-4.4%	+1.2%

■対前年台数伸び率

	2024年	
	1Q	年間見通し
オフィス複合機	-6%	+1%
LP	-16%	+14%
インクジェット	-17%	+2%

14

<プロダクション>

デジタル商業印刷機は、多品種少量印刷対応や省力化に優れた点からアナログ機からの置き換えが着実に進んでおり、年率5%程度の成長が続く見通しです。

第1四半期は、imagePRESS Vシリーズや「Colorado M」の好調が昨年から継続し、さらに受注を獲得していた連帳機など大型装置の設置が進んだことで売上を伸ばしました。

サービス収入もここ数年本体販売が着実に伸びてきたことで、安定成長を続けています。

第2四半期は、4年に一度ドイツで開催される国際的な印刷機材展示会で業界をリードする当社の印刷機器をアピールし、商談を活性化することで、今後の売上規模拡大につなげていきます。

■売上/対前年伸び率

(億円)

		1Q			年間				
		2024年 実績	2023年 実績	対前年	2024年 最新見通し	2023年 実績	対前年	2024年 前回見通し	対前回
プロダクション		990	870	+13.8%	4,138	4,016	+3.0%	4,138	+0
オフィス	オフィス複合機	1,563	1,437	+8.8%	6,275	6,222	+0.8%	6,275	+0
	オフィスその他	983	896	+9.7%	3,693	3,641	+1.4%	3,693	+0
		2,546	2,333	+9.1%	9,968	9,863	+1.1%	9,968	+0
プロシューマー	LP	1,454	1,511	-3.7%	6,317	6,089	+3.7%	6,269	+48
	インクジェット	813	868	-6.3%	3,515	3,493	+0.6%	3,515	+0
		2,267	2,379	-4.7%	9,832	9,582	+2.6%	9,784	+48
売上高計		5,803	5,582	+4.0%	23,938	23,461	+2.0%	23,890	+48
営業利益		655	506	+29.4%	2,606	2,283	+14.1%	2,559	+47
%		11.3%	9.1%		10.9%	9.7%		10.7%	

■対前年売上伸び率(現地通貨)

	2024年	
	1Q	年間見通し
プロダクション	+1.9%	+1.5%
オフィス	+1.7%	0.0%
プロシューマー	-12.7%	+2.4%
合計	-4.4%	+1.2%

■対前年台数伸び率

	2024年	
	1Q	年間見通し
オフィス複合機	-6%	+1%
LP	-16%	+14%
インクジェット	-17%	+2%

14

<オフィス>

オフィス複合機の市場は、足元では中国や欧州での市況低迷の継続も見られますが、生産性の高い複合機は、オフィスにおけるメインのプリンティング機器として、底堅い需要が続く見通しです。

第1四半期は、A4モデルの供給量が回復し売上を伸ばした昨年と比較すると本体販売台数は減少しましたが、ここ数年販売を伸ばしカラー機の稼働台数が増加していることでサービス収入が増え、増収となりました。

当社のオフィス複合機は、メンテナンス性や省エネ性能、製品の安定供給の点で顧客からの評価を得ており、マーケットシェアを拡大しながら、年間でも売上成長を目指していきます。

■売上/対前年伸び率

(億円)

	1Q			年間					
	2024年 実績	2023年 実績	対前年	2024年 最新見通し	2023年 実績	対前年	2024年 前回見通し	対前回	
プロダクション	990	870	+13.8%	4,138	4,016	+3.0%	4,138	+0	
オフィス	オフィス複合機	1,563	1,437	+8.8%	6,275	6,222	+0.8%	6,275	+0
	オフィスその他	983	896	+9.7%	3,693	3,641	+1.4%	3,693	+0
	2,546	2,333	+9.1%	9,968	9,863	+1.1%	9,968	+0	
プロシューマー	LP	1,454	1,511	-3.7%	6,317	6,089	+3.7%	6,269	+48
	インクジェット	813	868	-6.3%	3,515	3,493	+0.6%	3,515	+0
	2,267	2,379	-4.7%	9,832	9,582	+2.6%	9,784	+48	
売上高計	5,803	5,582	+4.0%	23,938	23,461	+2.0%	23,890	+48	
営業利益	655	506	+29.4%	2,606	2,283	+14.1%	2,559	+47	
%	11.3%	9.1%		10.9%	9.7%		10.7%		

■対前年売上伸び率(現地通貨)

	2024年	
	1Q	年間見通し
プロダクション	+1.9%	+1.5%
オフィス	+1.7%	0.0%
プロシューマー	-12.7%	+2.4%
合計	-4.4%	+1.2%

■対前年台数伸び率

	2024年	
	1Q	年間見通し
オフィス複合機	-6%	+1%
LP	-16%	+14%
インクジェット	-17%	+2%

14

<プロシューマー>

プリンター市場は、中国や欧州での市況の低迷が継続しており、今年も前年から3~4パーセント縮小すると想定しています。

レーザープリンターは、第1四半期の売上は前年を下回ったものの、計画通りに進捗しており、出荷調整を終え第2四半期からはモノクロ機を中心に売上が対前年でプラスに転じる予定です。

競合に対抗し、顧客ニーズにマッチしたモデルを拡充することでマーケットシェアを拡大し、売上の回復を加速していきます。

インクジェットプリンターは、景気後退と競合の積極的な販売促進施策の影響を受け、第1四半期も売上が減少しました。

当社は大容量インクモデルの拡販を図るため、昨年9月にビジネス向けエントリー機を発売しており、今年さらに拡充してラインアップが出揃います。

米国やラテンアメリカなどで売上を伸ばしており、今後はアジアで拡販を進めプリントボリュームの多いユーザーを取り込んでいきます。

プリンティング ハード/ノンハード売上

■プリンティング ハード/ノンハード別 対前年売上伸び率

			2024年		2023年	
			1Q 実績	年間 見通し	1Q 実績	年間 実績
プロダクション	円貨	ハード ノンハード	+13% +14%	+7% +1%	+19% +18%	+11% +11%
	LC	ハード ノンハード	+1% +3%	+6% -1%	+8% +8%	+3% +3%
オフィス複合機	円貨	ハード ノンハード	+4% +14%	+1% 0%	+39% +12%	+12% +7%
	LC	ハード ノンハード	-6% +5%	0% -1%	+27% +4%	+5% +2%
LP	円貨	ハード ノンハード	-15% +4%	+8% +1%	+15% -7%	-10% -4%
	LC	ハード ノンハード	-23% -4%	+8% +2%	+8% -10%	-15% -6%
インクジェット	円貨	ハード ノンハード	-14% -1%	+1% +1%	-9% +2%	-14% +2%
	LC	ハード ノンハード	-22% -10%	0% -1%	-16% -7%	-18% -4%

■ 売上/対前年伸び率

(億円)

	1Q			年間				
	2024年 実績	2023年 実績	対前年	2024年 最新見通し	2023年 実績	対前年	2024年 前回見通し	対前回
売上高計	1,342	1,311	+2.4%	5,820	5,538	+5.1%	5,820	+0
営業利益	56	69	-18.9%	460	316	+45.3%	460	+0
%	4.2%	5.2%		7.9%	5.7%		7.9%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2024年	
	1Q	年間見通し
合計	-3.4%	+4.3%

16

画像診断装置の市場は、金利や人件費の上昇などにより資金面から装置の購入を先送りする医療機関が見受けられる中でも、2%程度の成長が見込まれています。

第1四半期は、中国の反腐敗運動による市況低迷に加え、欧米でも商談や設置の延伸により売上が第2四半期に先送りされ、開発や販売での成長投資の増加を吸収できずに利益は前年を下回りました。

第2四半期からは、CTでは昨年12月のRSNAで発表したボリュームゾーンである80列の新製品「Aquilion Serve SP」の本格的な受注・販売が始まり、MRIは昨年日本でのシェアNo1獲得に貢献した「Vantage Fortian 1.5T」に3テスラの新製品が加わり、グローバルで展開していきます。

また、昨年の米国における新マーケティング会社の立ち上げや、サウジアラビアでの現地法人設立による販売力強化・プレゼンス向上の効果は商談数の増加として現れてきており、早期に販売につなげていきます。

売上拡大に加え、新製品比率増加によるプロダクトミックスの改善、原価低減施策を織り込んだ製品の展開、昨年後半に販売した大型装置の保守サービス開始に伴う収入により、年間での営業利益率を7.9%にまで高めています。

■売上/対前年伸び率

(億円)

	1Q			年間				
	2024年 実績	2023年 実績	対前年	2024年 最新見通し	2023年 実績	対前年	2024年 前回見通し	対前回
カメラ	1,023	1,100	-7.1%	5,642	5,446	+3.6%	5,650	-8
ネットワークカメラ他	732	824	-11.2%	3,358	3,170	+5.9%	3,358	+0
売上高計	1,755	1,924	-8.8%	9,000	8,616	+4.5%	9,008	-8
営業利益 %	143 8.1%	373 19.4%	-61.7%	1,438 16.0%	1,456 16.9%	-1.2%	1,472 16.3%	-34

■対前年売上伸び率(現地通貨)

	2024年	
	1Q	年間見通し
カメラ	-15.3%	+3.3%
ネットワークカメラ他	-19.7%	+4.8%
合計	-17.2%	+3.9%

■カメラ台数/対前年伸び率

	2024年	
	1Q	年間見通し
台数(万台)	50	280
伸び率	-10%	-3%

17

<カメラ>

カメラ市場は、昨年、商戦期である第4四半期に各社が積極的な販売促進施策をとり販売台数を伸ばしたため、今年は4%減の575万台を想定しています。

第1四半期は、「EOS R50」などを中心にミラーレスは販売台数を伸ばしましたが、昨年第4四半期に販売したカメラが市中在庫として一部残っており、適正化のために出荷台数を絞るとともに、量販店のセルアウトを進めるための販売促進費用をかけたことで減収となりました。

第2四半期以降は、市中在庫の適正化に加え、本体およびレンズのラインアップ拡充によりEOS Rシステムをさらに強化し、静止画、動画撮影双方の需要を喚起していきます。ミラーレス比率の上昇によりプロダクトミックスを改善し、年間で3.7%の売上成長をめざします。

■売上/対前年伸び率

(億円)

	1Q			年間				
	2024年 実績	2023年 実績	対前年	2024年 最新見通し	2023年 実績	対前年	2024年 前回見通し	対前回
カメラ	1,023	1,100	-7.1%	5,642	5,446	+3.6%	5,650	-8
ネットワークカメラ他	732	824	-11.2%	3,358	3,170	+5.9%	3,358	+0
売上高計	1,755	1,924	-8.8%	9,000	8,616	+4.5%	9,008	-8
営業利益 %	143 8.1%	373 19.4%	-61.7%	1,438 16.0%	1,456 16.9%	-1.2%	1,472 16.3%	-34

■対前年売上伸び率(現地通貨)

	2024年	
	1Q	年間見通し
カメラ	-15.3%	+3.3%
ネットワークカメラ他	-19.7%	+4.8%
合計	-17.2%	+3.9%

■カメラ台数/対前年伸び率

	2024年	
	1Q	年間見通し
台数(万台)	50	280
伸び率	-10%	-3%

17

<ネットワークカメラ他>

市場は、世界経済減速の影響を受けつつも、安心安全を求める人々の根本的なニーズを背景に成長を続けています。

第1四半期は、昨年第4四半期に始まった販売パートナーの在庫調整が続き減収となりましたが、在庫調整は欧州、アジアから終了していく見通しであり、第2四半期以降は当社の売上も成長基調に戻る見込みです。

映像を撮影するネットワークカメラ本体と撮影した映像の管理、解析するソフトウェアまでを一体にして最適なシステムを顧客に提案できる強みを活かし、売上を伸ばしていきます。

■売上/対前年伸び率

(億円)

	1Q			年間				
	2024年 実績	2023年 実績	対前年	2024年 最新見通し	2023年 実績	対前年	2024年 前回見通し	対前回
光学機器	470	400	+17.5%	2,488	2,126	+17.0%	2,528	-40
産業機器	215	221	-2.7%	1,302	1,021	+27.5%	1,302	+0
売上高計	685	621	+10.4%	3,790	3,147	+20.4%	3,830	-40
営業利益	121	74	+62.5%	710	586	+21.2%	723	-13
%	17.6%	12.0%		18.7%	18.6%		18.9%	

■対前年売上伸び率(現地通貨)

	2024年	
	1Q	年間見通し
光学機器	+15.0%	+16.8%
産業機器	-3.6%	+27.4%
合計	+8.4%	+20.3%

■露光装置台数

		2024年	
		1Q	年間見通し
半導体	KrF	14	54
	i線	35	190
		49	244
FPD		1	26

18

<光学機器>

2024年の半導体デバイス市場は、中国景気やEV投資の減速などの影響で想定していたよりも成長はやや鈍化しているものの、生成AIで用いられるロジックやDRAMが大きく伸び、需給調整により縮小した2023年から回復し、2022年並みの水準になると見ています。

半導体露光装置の市場は、半導体デバイスの中長期的な成長見通しと経済安全保障の観点から自国生産を進める動きにより、大きく成長した前年と同等の水準を維持する見通しです。

当社は、第1四半期は、化合物ウエハーにも対応した装置がパワー半導体向けに大きく伸び、業界標準となった先端パッケージ用の後工程向け装置の引き合いも強く、前年29台から大幅増となる49台を販売しました。

年間では前年から57台増となる244台を計画していますが、すでに大部分が受注を完了しており、第2四半期以降も生産・設置のペースを高めていきます。

昨年10月に販売を開始したナノインプリント半導体製造装置については、メモリ、ロジックなど、さまざまなデバイスでの実用化を目指し、半導体メーカーの仕様にに基づき、共同で評価・検証を進めています。

■ 売上/対前年伸び率

(億円)

	1Q			年間				
	2024年 実績	2023年 実績	対前年	2024年 最新見通し	2023年 実績	対前年	2024年 前回見通し	対前回
光学機器	470	400	+17.5%	2,488	2,126	+17.0%	2,528	-40
産業機器	215	221	-2.7%	1,302	1,021	+27.5%	1,302	+0
売上高計	685	621	+10.4%	3,790	3,147	+20.4%	3,830	-40
営業利益	121	74	+62.5%	710	586	+21.2%	723	-13
%	17.6%	12.0%		18.7%	18.6%		18.9%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2024年	
	1Q	年間見通し
光学機器	+15.0%	+16.8%
産業機器	-3.6%	+27.4%
合計	+8.4%	+20.3%

■ 露光装置台数

		2024年	
		1Q	年間見通し
半導体	KrF	14	54
	i線	35	190
		49	244
FPD		1	26

18

<光学機器/産業機器>

今年に入ってパネルの需給バランスの改善が進み、パネルメーカーの収益改善が見込まれるため、ディスプレイ製造装置への投資も徐々に回復してくる見通しです。

当社のFPD露光装置は、第1四半期は1台に留まったものの、年間26台の販売計画についてほぼ受注を獲得できており、第2四半期以降、販売台数を増加させていきます。

産業機器については、有機EL蒸着装置が、ITパネル向けに初号機の生産を進めていくことで、第2四半期以降売上を大幅に伸ばしていく計画であり、スマートフォン向けの中小型機同様、業界標準機として確立させることを目指していきます。

2024年 営業利益分析(年間)対前回

